

1 耐震診断

大規模な地震に対して、どの程度の安全性があるかを判定

要件

- 木造（在来軸組構法、伝統構法、枠組壁工法等）
- 平成12年5月31日以前に着工
- 3階建て以下
- 住宅（併用住宅、共同住宅、長屋、借家、空き家を含む）

耐震診断員（建築士）が、ご自宅を訪問し、現地調査（2時間程度）を行います。後日、耐震診断員が再度訪問し、診断結果を説明します。

費用 5万円のところ
自己負担

無料

※H30年度から無料となりました！

2 改修工事

住み続けたいので本格的に補強(1.0以上)

耐震改修支援事業

耐震改修 **135万円** + 感震ブレーカー **10万円** + 低コスト工法設計費 **10万円**
(補助率4/5) ※1

要件

- 耐震診断で、評点1.0未満と判定

(必須事項)

- 改修後の評点を1.0以上とする工事
- 高さ1.5m以上の家具の固定
- 県登録の施工者等が施工
- のぼり旗設置や見学会等への協力



- 分電盤タイプの感震ブレーカーの設置
※日本配線システム工業会の規格適合品に限ります。
※コンセントタイプや簡易タイプは認められません。

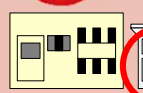


震度5強で
ブレーカーを
強制遮断

分電盤タイプ
(内蔵型)



分電盤タイプ
(後付型)



※1: 低コスト工法を採用した耐震改修工事を行った場合、その設計費用として10万円上乗せ

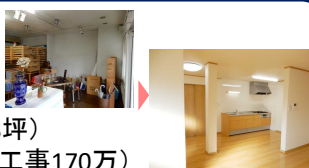
(対象にできる工事)

- 部分的な欠陥を改修する工事
- 危険なコンクリートブロック塀の撤去等

一般的な
改修事例

耐震壁を増設することで
使い勝手が悪くならない
よう部屋割りを工夫。

木造2階建 築41年 面積95㎡(28坪)
総工事費 270万円(うち耐震改修工事170万)
→自己負担125万円、補助金145万円
工事期間 40日
耐震効果 改修前0.18 改修後1.15(0.97アップ)

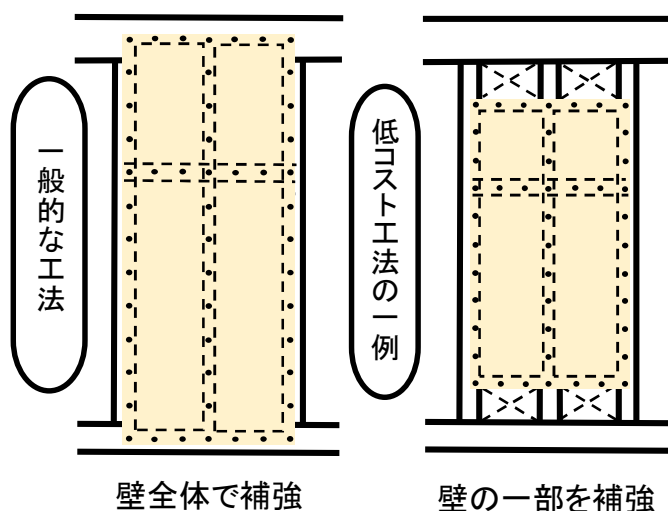


低コスト工法

メリット(認定された工法を上手く活用することで)

1. 既存の床や天井を壊さずに補強できる。
2. 外壁撤去を行わずに外部から補強できる。
3. 工事費や工期が縮減できる。

低コスト工法として認定された工法を上手く活用することで、既存の床や天井等の復旧工事が不要となり、工事費や工期が縮減できます。



評点ってなに？

木造住宅の耐震性能を表す指標で、上部構造評点といいます。大地震の揺れに対して倒壊するかもしれないかは次のように判定します。

上部構造評点	判定
1.5以上	倒壊しない
1.0以上1.5未満	一応倒壊しない
0.7以上1.0未満	倒壊する可能性がある
0.7未満	倒壊する可能性が高い

では、どんな改修工事にしたいですか？

- ☐ 地震後も簡単な修理だけで住み続けたい
- ☐ 住宅が倒壊しても命だけは守りたい
- ☐ 引っ越さずに出来るような工事にしたい

評点

→

費用

円程度

住宅が倒壊しても命は守りたい

耐震シェルター設置支援事業

80万円 + **10万円**

耐震ベッドの場合40万円
(補助率4/5)

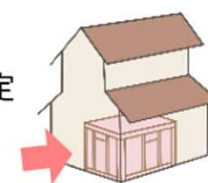
要件

- 耐震診断で、評点1.0未満と判定
- 現在居住している住宅

(必須事項)

- 耐震シェルター又は耐震ベッドの設置
- 高さ1.5m以上の家具の固定
- 県登録の施工者等が施工
- 分電盤タイプの感震ブレーカーの設置

※徳島県で認定している耐震シェルターに限ります。
R2.3月現在は2社(株式会社防災ネット、フレッセ)



和室に6畳用耐震シェルターを設置。内部を洋風に仕上げて寝室に。



新設したコンクリート土間の上に、土台、柱、梁、壁、天井の順に組立て。最後の内装仕上げは施主のお好みで。

木造2階建 築51年 面積207㎡(62坪)
総工事費 150万円→自己負担70万円、補助金80万円
工事期間 約3週間

改修事例

鳴門市

／まったなし！／

住まいの耐震化



住替えや建替えに伴い古い住宅を壊したい

住替え支援事業

30万円

(補助率2/5)

要件

- 耐震診断で、評点0.7未満と判定
- 昭和56年5月31日以前に着工
- 現在居住している住宅

(必須事項)

- 住宅のすべてを除却
- 解体業者が施工



(対象にできる工事)

- 危険なコンクリートブロック塀の撤去等

お気軽に
お問い合わせ
ください。



補助制度などのお問い合わせ先
鳴門市 都市建設部 まちづくり課 建築担当
電話 088-684-1164